

【最終章】

とも

曲り家と共に

「遠野が日本のふるさとで
あり続けるために、
後世に守り伝えなければ
ならないもの」

曲り家を伝え残す

『永遠の日本のふるさと』を将来像に掲げる本市。茅葺き屋根の曲り家を貴重な地域資源として、土淵町にある水光園と伝承園、附馬牛町の遠野ふるさと村に移築保存し、活用してきた。

平成八年に附馬牛町にオープンした遠野ふるさと村には、五棟の曲り家と一棟の直家を移築。木々に囲まれた村内には小川が流れ、田畑では米や野菜を収穫する。曲り家には馬が生活し、土間にある湯釜には蒔がくべられる。遠野の昔ながらの暮らしが再現されている。

る。曲り家の中に入ると、まぶりと衆(※1)がわら細工やそば打ちなどを訪れた人たちに体験させてくれる。

映画「河童のクゥと夏休み」やNHKの連続テレビ小説「どんど晴れ」の効果で、岩手、そして遠野が全国的に脚光を浴びた今年。市は、『伝統かやぶき屋根再生事業』として、市内観光施設にある曲り家などの茅葺き屋根を本年度から九年かけて修復することを決めた。

佐々木政嗣(まさき)プロジェクト担当課長は「先人が守ってきた財産である曲り家は、遠野の文化の象徴。曲り家を修復することを通して、こ

れからを担う現代の人たちが、改めて遠野の文化を見直すきっかけにしたい」と話す。

本年度は、水光園の曲り家、附属するトイレ、水車小屋の葺き替えを行うこととし、十二月中の完成を目指し九月二十五日から作業が始まった。この事業では、単に曲り家の修繕を目的とするのではなく、茅葺きの伝統技術の継承や、市民協働による茅葺き屋根保存の仕組み作りも視野に入れている。

千葉家の重要文化財指定を見込み、地域住民や学識経験者などで組織する「千葉家住宅保全整備準備会」を近日中に立ち上げる予定で、国民の宝である千葉家を後世に残す取り組みについても検討に入る予定だ。

ふんわりくんの思い

曲り家からは、厳しい遠野の自然と共生してきた先人の暮らしぶりを垣間見ることができる。結いの心で作られ、馬の息づかいを

感じながら生活してきた曲り家の暮らし。そこには、現代の私たちが忘れかけている大切なものが見えてくる。

遠野が日本のふるさとであり続けるために、茅の一本一本に込められた先人たちの思いは、今も郷土を見守っている。

※1 まぶりと(守り人)：遠野の文化と伝統を守る人をいう

特集「曲り家と生きる」 終わり

葺き替え作業を 一般公開しています

- ◆期間 11月18日(日)まで
- ◆時間 午前10時～午後3時
- ◆場所 1 たくむろ水光園曲り家
茅葺き屋根葺き替え工事現場内
- ◆問い合わせ先 2 たくむろ水光園フロント (☎02839)